

## ユニバーサルデザインの視点で授業を見直してみませんか!!

### 授業のユニバーサルデザインとは・・・

環境を、障がいの有無、年齢、性別、人種などにかかわらず、多様な人々が利用しやすいようにデザインすることを「ユニバーサルデザイン」といいます。この考え方を学校の授業に取り入れた、多くの子どもの分かりやすい指導・支援の在り方を「授業のユニバーサルデザイン」といいます。

特別な支援を必要とする子どものみならず、すべての子どもにとって分かりやすい授業づくりのため、授業検討・指導案作成の際に「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れてみませんか。

### 多様な学び方をもつ子どもたちが「分かる」ことを実感できる授業の工夫の例

#### 見通しをもたせる工夫

- 1時間の授業の流れを視覚的に示すなどして、展開の中で、今どの場面なのか分かるようにする。
- 作業場面では、タイマーを使用する。
- 授業をある程度パターン化する。
- 静と動をバランスよく配列し、メリハリのある授業構成を行う。



#### 学習参加を促す工夫

- 学習のルールを絵や文字で示す。
- 発表順を予告する。分かる場面で指名する。
- 「教科書〇ページ」など、活動の手がかりを板書して示しておく。

#### 情報を伝える工夫

- 大事なことは、いろいろな感覚を通して伝える。(耳からと目からの教材)
- 短い文で簡潔に指示する。1つの指示で1つの活動を。
- 「ちゃんと」「きちんと」などの抽象的な表現や、あれ、これなどの「こそあど言葉」を多用しない。
- 計算方法、漢字の書き方などは言語化して示す。
- 大事なことは、前置きをして、注目させてから示す。



授業づくりリーフレットから  
何をどう学んでいるかが見える板書が、分かる授業につながる。

教師は、授業の中で指示や発問など、たくさんの情報を提示します。しかし、耳からの情報は消えてしまいます。学習の流れや子どもの思考過程を板書などの見えるかたちで残すことにより、聴き取りが苦手な子どもも安心して学習に取り組むことができます。

ユニバーサルデザインの授業づくりは、新潟市が目指す授業改善、生徒指導につながります。



生徒指導リーフレットから  
各教科の授業の中で、学習の課題を分かりやすく提示し、興味・関心、能力に応じた教材・学習場面を工夫する。

子どもが「分かる」と実感できる授業は、子どもの参加意識を高めます。ユニバーサルデザインの授業づくりは、一人一人の自己存在感・成就感を高めます。このことが、不適応行動や二次障がいの予防につながります。

# リーフレットで授業力アップ!! ②

## 板書で授業の展開とゴールイメージを明確にする ～数学～

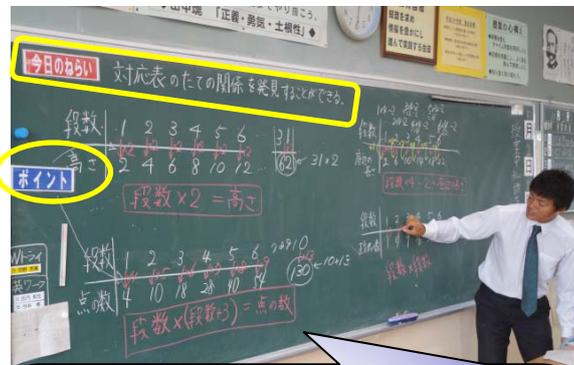
「変化と対応」平成24年10月 山の下中学校 1年 授業者 石井 裕 教諭

石井教諭は、生徒に学習の見通しをもたせるために、具体的な事例を基に学習のねらいを導き、課題解決のポイントを板書しました。

1辺が2cmの正方形を階段状に積み上げるとき、段数とともに変わっていくものを見つけ、変化の様子を調べよう。

生徒は、31段のときの高さを調べ、表を縦にみると「段数×2＝高さ」になることを見いだしていました。実際に、31段のピラミッド図を確かめながら、「すげえ！」と納得した様子でした。そして、今日のねらいである「対応表の縦の関係を発見する」をみんなで確認し、きまりを式に表す活動をグループで行いました。

学習のねらいと課題解決のポイントを板書で整理することで、生徒らは縦の関係に着目し、その規則性を「段数×4－2＝横幅」などの式に表すことができました。



- ・大きな数になっても関係を発見することで大変じゃなくなります。
- ・底辺の長さの式が見つけれなくてくやしかった。
- ・横の関係より縦の関係の方が分かりやすい。〈自己評価カードより〉

<文責 吉田 亨>

## 子どもの課題意識を基に、子どもとともに学習課題を設定する ～生活～

「おいしいやさいをつくりたいな」平成24年6月 鏡淵小学校 2年 授業者 渡部 香世子 教諭

渡部教諭の授業は、生活科・内容(7)「動植物の飼育・栽培」を取扱った実践であり、学ぶべき点が数多くありました。ここでは、紙面の都合上、次の2点に絞ってご紹介します。

### <授業づくりリーフレットの視点から>

子どもの課題意識(質的に高まった気付き)を基に、子どもとともに学習課題を設定していた点。

### <教科(生活科)の視点>

活動や体験によって生まれた気付きを、無自覚なもの(認識としてのもの)から自覚されたもの(関連付けられたもの)へと質的に高めるための働き掛けを行っていた点。

### 【授業の実際】

導入において、これまでの野菜作りの様子を振り返り、やさいの気持ちを想像して「顔の表情」で描かせました。

### <泣いた顔、心配な顔など>

その後、そのような顔に描いた理由を考えさせることにより、先の活動で生まれた「認識としての気付き」が、「関係付けられた気付き」へと質的に高められていきました。

### <枯れかけているから、虫がついているから>

その上で、子どもたちの質の高まった気付き(課題意識)を基に、子どもたちとともに学習課題を設定していました。

<みんなの野菜に無事に実がなるためにはどうしたらいいでしょうか?>

これにより、子どもたちは、課題解決に向けての主体的に学習に取り組む姿が見られました。



<文責 兵藤 清一>

## 教材の工夫で子どもの興味・関心を高める ～外国語活動～

「Hi, friends!1」平成24年9月 和納小学校 5年 授業者 三浦 則子 教諭

三浦教諭は、Hi, friends!1「Lesson5」の単元において、子どもたちに新しい表現“What color do you like?”に出会わせる場面で、自作のビデオ教材を活用しました。

みんなで予想してみましょう。



あっ、〇〇先生だ！  
〇〇先生は何色が好きなのかな？



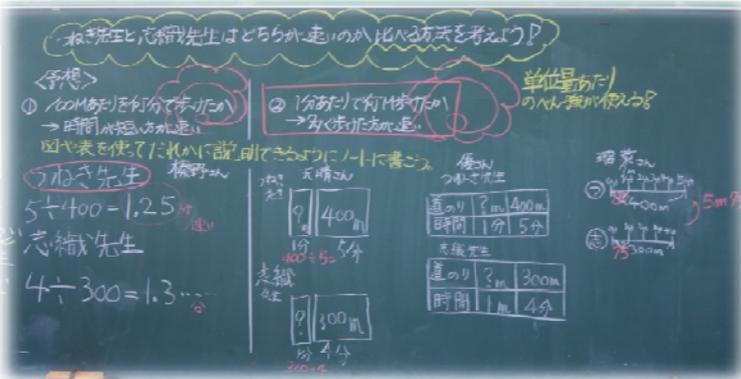
魅力的な教材開発と提示の工夫は、子どもの意欲を引き出します。

ことばを学習する初期段階では、とりわけ場面設定が大切です。新しい表現を学ぶ際は、その表現が使用される場面状況から意味内容を推測し理解を深めていきます。三浦教諭は、子どもたちがよく知っている和納小学校の先生数名をビデオに登場させました。対話を通して「何色が好きか」という表現を導入し、途中でビデオを止めながら、答えを予想させる活動を行うことによって、子どもたちの「質問して答えを聞きたい」という強い気持ちを起こさせました。ビデオに登場した先生たちの演技力の上手さも効果的であったことは言うまでもありません。**子どもの興味・関心や実態に基づいた教材の開発と提示の工夫が、外国語活動の授業の成功の大きなポイントの1つとなります。**

<文責 由野 和美>

## 生徒指導にも、リーフレットの活用を!! ②

生徒指導は、授業を通して・・・ 一人一人大切にする・協力する



東中野山小学校6年3組の高橋教諭は、速さを比べる算数の授業で、

一人一人の考えをていねいに取り上げ、比較しやすいようにまとめました。(左:板書)

このように、**その児童の考えのよさをていねいに取り上げ、意味付けすることが、授業を通じた生徒指導の一例となる良い実践です。**

中野山小学校3年1組の佐藤教諭は、校区内のゴミ拾い作戦のコースを決める話し合いの授業を行いました。

事前に現地調査したゴミの量、ゴミの種類などを「可視化」した資料で提示し、それをもとに話し合いをさせました。

子どもたちは、話し合う材料があるので熱心に意見を交換し、ゴミ拾いのコースを完成させていきました。自分たちが話し合って決めたコースですから、次回への期待は大きくなります。**協同性を生かしているよい実践例です。**

<文責 長谷川 智>

# 授業改善研修会

～平成24年度 全国学力・学習状況調査の活用について～



10月11日・12日の両日、新潟市立総合教育センターを会場に、「授業改善研修会」を開催しました。平成24年度の全国学力・学習状況調査の結果に基づき、国語、算数・数学、理科の授業改善について研修を深めるためのものです。

希望制の研修でしたが、11日の小学校部会には13校166名、12日の中学校部会にも52校75名の先生方から参加がありました。

研修会ではまず、全体会で市の学力実態及び調査結果等の活用について、説明しました。ここでは、平均正答率や分布の状況といった全体的な状況だけではなく、

〈全体会風景〉



**設問ごとに無解答の状況や解答類型別の結果を確認し、具体的な指導法の工夫・改善を図る**

ことの重要性について、調査結果をまとめた資料に基いて説明しました。



続く教科に分かれての分科会では、前半に文部科学省・国立教育政策研究所から発行された報告書を基に、正答率が低い問題や無解答率の高かった問題のポイントについて説明しました。

実際に参加者に調査問題を解いてもらいながら解説することにより、児童生徒のつまずきを理解してもらうことができたのではないかと思います。

また、分科会後半では、課題となっている点を克服するために、日々の授業改善について、演習形式で研修しました。

国語分科会では、限られた授業時間の中で効率的に指導を行うため、これから学習する教科書教材・単元で調査問題のような課題・設問が作れないかを考えました。また、理科分科会では、問題点に対応するための授業の展開案づくりに取り組みました。

はじめは頭を悩ませていた参加者も、グループで意見を出し合う中で、少しずつ課題づくりや展開案づくりのイメージができてきたようでした。



研修会でテキストとして使用した報告書等は、各学校に配付されているほか、以下のホームページでも見ることができます。ぜひ、各校の分析や日々の授業改善に役立ててください。

○国立教育政策研究所HP → <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

※参考となる資料 平成24年度 調査問題・正答例・解説資料について  
報告書・集計結果について  
全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例